

平成21年度 第37回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会  
 兼 第40回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会  
 大会最終日:平成21年11月3日(火)  
 会場:岐阜アリーナ

## 男子の部

&lt;審判&gt;

決勝 美濃加茂 115  $\left[ \begin{array}{r} 24 - 13 \\ 27 - 11 \\ 32 - 19 \\ 32 - 20 \end{array} \right]$  63 岐阜総合 増田 博徳・大江 裕之

昨年と同じカードとなった決勝戦、今年度のインターハイ出場を逃した美濃加茂と、選抜大会4連覇に燃える岐阜総合の激突となった。両チームともマンツーマンでスタート。美濃加茂は、林戸のドライブ、高橋のリバウンドからの得点で先手を取る。岐阜総合も松井、浅野のシュートで追い上げるが、相手の手厚いディフェンスの前に流れをつかめない。第1ピリオドは、美濃加茂が24-13とリードする。

第2ピリオドも美濃加茂は林戸のドライブ、ジャンプシュート、小園井のシュートで着実に得点していく。岐阜総合は松井、浅野が3点シュートを決めるも、相手の勢いに圧倒され、点差を詰めることができない。前半が終わって、美濃加茂が51-24と優位に立つ。

第3ピリオド、美濃加茂はドライブからの速いパス回し、合わせのプレーで、小園井、安藤、中村が次々にシュートを決めていき、守っても素早い動きからインターセプトを狙い、相手の反撃を許さない。岐阜総合はディフェンスを2-2-1ゾーンプレスに変えて相手の出足を止めようとするが、松井、小西が厳しいマークにあいパスがつかない。

第4ピリオド、美濃加茂はベンチメンバーに交代させていくも、チームのスピードは落ちず、最後まで得点のペースは続いていく。林戸は攻めでは32得点、守っては相手のエースをきっちりと守り、チームを勢いづける働きで115-63の勝利に導き、4年ぶり2回目のウィンターカップ出場を勝ち取った。岐阜総合も最後まで諦めることなく走りきり、松井が6本の3点シュートを含む24得点をあげる活躍を見せたが、相手の勢いの前に敗れ去った。(高橋信之)

## 女子の部

&lt;審判&gt;

決勝 岐阜女子 86  $\left[ \begin{array}{r} 29 - 12 \\ 28 - 11 \\ 13 - 10 \\ 16 - 7 \end{array} \right]$  40 高山西 棚橋 英一・廣瀬 卓哉

岐阜女子ハーフコートマンツーマン、高山西オールコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は、センター 杉浦にボールを集め、インサイドでシュートを決め、さらにスクリーンプレーをうまく使って、中村 尾崎が3点シュートを決めていく。高山西は井川がドライブからパスをさばき、岩畑 垣内が3点シュートを決めるが、相手のディフェンスに苦しみ、思うように得点があげられない。第1ピリオドは岐阜女子が29-12とリードする。

第2ピリオドに入っても、岐阜女子は中村の的確なパスワークから、杉浦、鐘ヶ江がゴール下でシュートを決めていく。さらに厳しいディフェンスで相手のミスを誘い、次々に速攻を決め、点差を広げていく。高山西も朝熊の3点シュートや趙のゴール下シュートで対抗するも、苦しい展開となる。前半で岐阜女子は57-23と大差をつけゲームの主導権を握る。

第3ピリオド、岐阜女子は早々にスタート全員がベンチメンバーと交代するが、早いパス回しからシュートに持ち込み、佐々木のリバウンドシュート、東方のドライブなどで得点する。高山西は前半終了間際、朝熊が負傷退場し、ゲームメイクに苦しむが、井川、張のジャンプシュートで互角の戦いに持ち込む。

第4ピリオドに入っても、岐阜女子はディフェンスの頑張りから野原、佐々木が速攻を決め、最後は86-40の大差で勝利し、18年連続19回目の優勝を飾り、全国大会への出場を決めた。高山西も井川がレイアップシュート、3点シュートと一人気を吐くが、相手の厳しいディフェンスの前に敗退した。(吉福 司)